

SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Jun. 2022



INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンホウ

TOP MESSAGE

来たる7月10日は参議院議員選挙の日です。

そこで、NHK選挙webで各党の「エネルギー・環境」についての公約を見ました。

公約の中に「カーボンニュートラル(またはCO2)」が出てきた政党は、自民党・立憲民主党・日本共産党・れいわ新撰組の4政党。前首相が「2050年CO2排出ゼロ」を掲げたにもかかわらず、自民党はのらりくらりな公約になっているのが気になります。これは現首相の意向でしょうか？

対して、立憲民主党・日本共産党は具体的な数値目標を記載していますが、個人的には話しが先過ぎるのとスケールが大き過ぎて、妥当な公約なのかがよく分かりません。

翻って自分の足元を見ると、誰もいない部屋の電気をつけっ放しにしていたり、食べもしないものを無駄に買って捨ててしまったりしている事があります。国の指針も大事ですが、まずは目の前の無駄を無くそうと思う今日この頃です。

参考

NHK選挙web

<https://www.nhk.or.jp/senkyo/>

サンシン電気株式会社 FAE課
新澤 竜

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

関東地方が梅雨明けしてしまいました。例年より3週間程度も早い梅雨明けとなります。梅雨は決して過ごしやすい時期ではありませんが、水不足を解消する重要な季節でもあります。これから猛暑が続く中で、水不足の恐れに心配しています。少しでも節水を心がけたいと思います。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

The most convenient breakfast is bread and people always like eat for breakfast but the bread is usually packed in plastic bag, If we can bring reuseable food ware instead of plastic bag that will make environment better. It's in our hands to protect nature and look after the environment. (C.Y.)

CSI

セブの季節は雨期と乾期があり、雨期は6月～10月・乾期は11月～5月になります。今セブでは Dengue 熱が流行しています。年配者や乳幼児が掛かると危険ですが、成人が発病する確率は低いです。Dengue 熱を保菌しているのはヤブ蚊が多く、外出時は虫よけクリームやスプレーを使う様作業者に注意を行いました。(K.S.)

SANSHINWest

今月から原油高や資源高、円安などの影響で食品・日用品・ガソリン・光熱費など生活に関わる多くのものが値上げされ家計を直撃しています。生活費を丁寧に見直し効果的なコストカットに努めたいものです。切り詰め過ぎは心の余裕も削ってしまいますので健全性を維持しながらメリハリある節約を！(N.K.)

SHINKOWA

最近、ここどころ暑くなる日もあれば、肌寒い日もあり、体調管理が難しくなりました。しかしながら、湿度が高く熱中症にもなりやすくなってきましたので、運動していなくてもこまめな水分補給を行うことが大切です。コロナウイルスも感染がまだまだ止まりませんが、体調管理を徹底し日常生活を過ごしていけたらと思います。(H.K.)

SC2

環境問題は、目の前の一枚のマスクや空のペットボトルが、どこから来てどこへ行くのかを考えることでもあります。それには長い時間と広い空間を俯瞰しようとする想像力、そして利他の心が必要です。<https://www.ran.org/procter-and-gamble-jp/> (M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

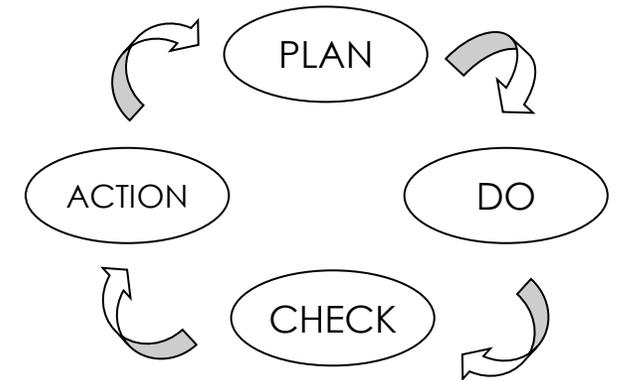
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



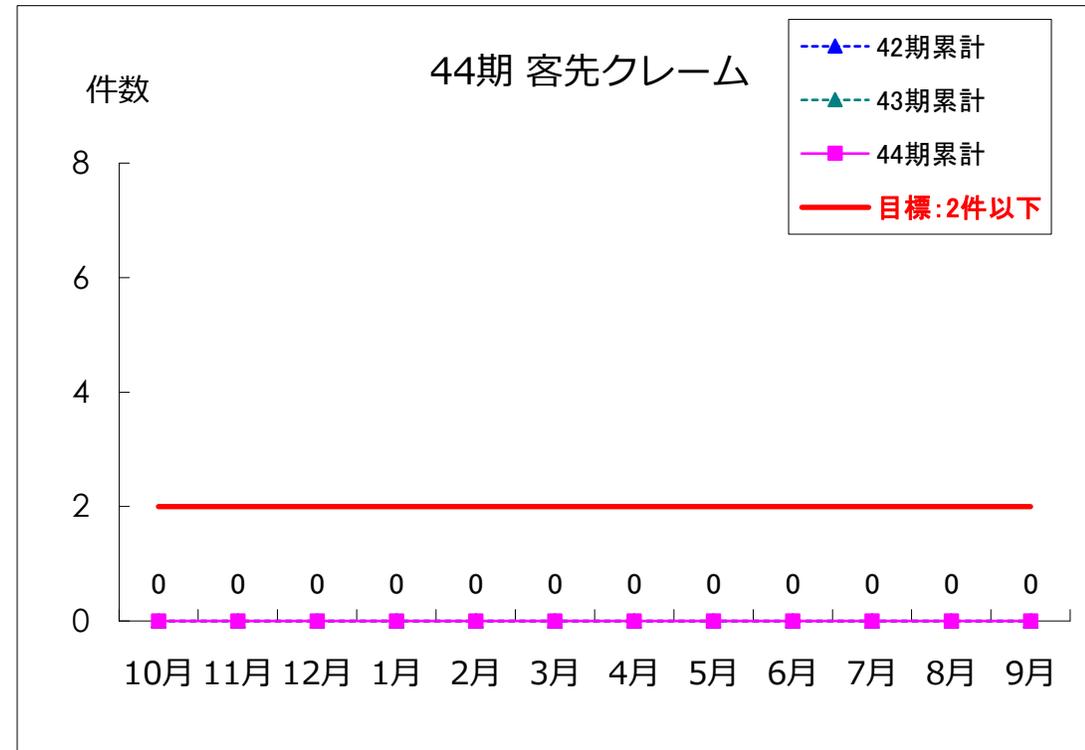
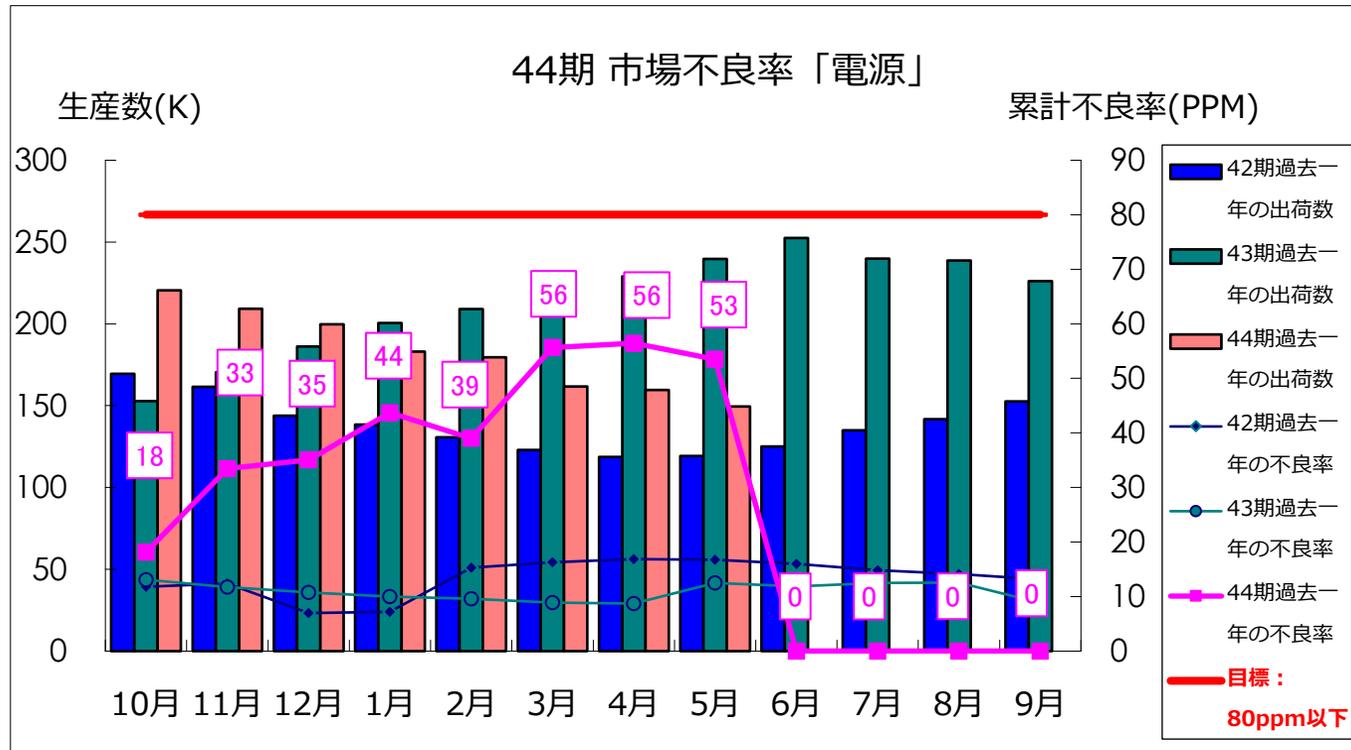
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入不良率 目標 80ppm

44期の累計不良率(解析含む)は、53ppm です。
 内部起因の市場不良累計(過去1年分) : 0件 、 客先クレーム : 0件



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■ サプライチェーン排出量の計算方法（前編）

先月はサプライチェーン排出量の概要について取り上げましたが、今月はサプライチェーン排出量の算定方法について取り上げます。2050年カーボンニュートラル宣言に向けて非常に重要な活動となりますので、ぜひ参考にして下さい。

☐ なぜ「サプライチェーン排出量」で考える？

■ 「サプライヤー排出量」は「自社排出量」の「4倍」

「サプライヤー排出量(取引先等の排出量)」は「自社排出量」の「4倍にのぼる」と報告されており、全世界的にCO2削減を実現するためには、自社だけでなく「サプライチェーン全体でのCO2削減」にも目を向ける必要性があるのです。

■ 「サプライチェーン排出量」は「国際的な基準」

「サプライチェーン排出量」は「国際的な基準」として、国際機関「GHGプロトコレイニシアチブ」で基準が定められています。世界共通の基準で算定されることで、各国共通、または国を越えた事業においても同じ基準で評価されるようになります。

■ 外部への情報共有にそのまま使用できる

「サプライチェーン排出量」は、世界共通の基準である為、企業の外部への共有にもそのまま使用することができる点も、大きな利点です。

今月のTOPICS

☑ 排出量の計算は「スコープの合算」

「サプライチェーン排出量」は、下図のように「スコープ1、スコープ2、スコープ3」に分類されます。そして、「スコープ1,スコープ2,スコープ3」を合算することで計算されます。



「サプライチェーン排出量」を算出する場合、まず「スコープ1,スコープ2,スコープ3」をそれぞれ計算することになりますが、その「スコープ1,スコープ2,スコープ3」はそれぞれ計算式が異なる点に注意が必要です。

今月のTOPICS

☑ スコープ1の計算方法

スコープ1は「自社で直接排出している温室効果ガス」が該当します。



☑ スコープ1(燃料の燃焼に伴うCO2排出量)の計算方法

スコープ1における温室効果ガスは、業種によって多岐にわたりますので、今回は「燃料の燃焼に伴うCO2排出量」の計算方法を取り上げます。

「スコープ1(燃料の燃焼に伴うCO2排出量)の」の排出量は、まず「1.発熱量」を算出し、そこから「2.CO2排出量」を算出します。
※これを燃料ごとに算出し、それを合算したものが「スコープ1(燃料の燃焼に伴うCO2排出量)の」の排出量になります。

①「発熱量」を「燃料ごと」に算出

$$\text{発熱量 (単位: MJ)} = \text{使用量 (単位: kg, L, Nm}^3 \text{ など)} \times \text{単位発熱量 (単位: MJ/kg, MJ/L, MJ/Nm}^3 \text{ など)}$$

②①から燃料ごとの「CO2 排出量」を算出

$$\text{CO}_2 \text{ 排出量 (単位: kg-CO}_2\text{)} = \text{発熱量 (単位: MJ)} \times \text{炭素排出係数 (単位: kg-C/MJ)} \times \frac{44}{12} \text{ CO}_2 \text{ 重量比 (単位: kg-CO}_2\text{/kg-C)}$$

今月のTOPICS

☑ スコープ2の計算方法

「スコープ2」は「自社で使用しているエネルギーを作る為に社外で排出される温室効果ガス」が該当します。



スコープ2は「電気のCO2排出量」「熱のCO2排出量」「電気・熱のCO2供給量」を求め、それらを元に計算します。

☑ 「電気のCO2排出量」を算出する

「スコープ1」では「燃料ごとに」発熱量からCO2排出量を算出していましたが、「スコープ2の電気での排出量」は「電気の供給元ごとに」算出します。

例えば、工場は東京電力から電気を購入しており、事務所棟は新電力会社から電気を購入している場合、

「東京電力」と「新電力会社」それぞれについて「電気の供給元ごとに」算出します。スコープ2は「電気のCO2排出量」「熱のCO2排出量」「電気・熱のCO2供給量」を求め、それらを元に計算します。

ボリュームが多いため、スコープ3の計算方法は来月（後編）ご紹介致します。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



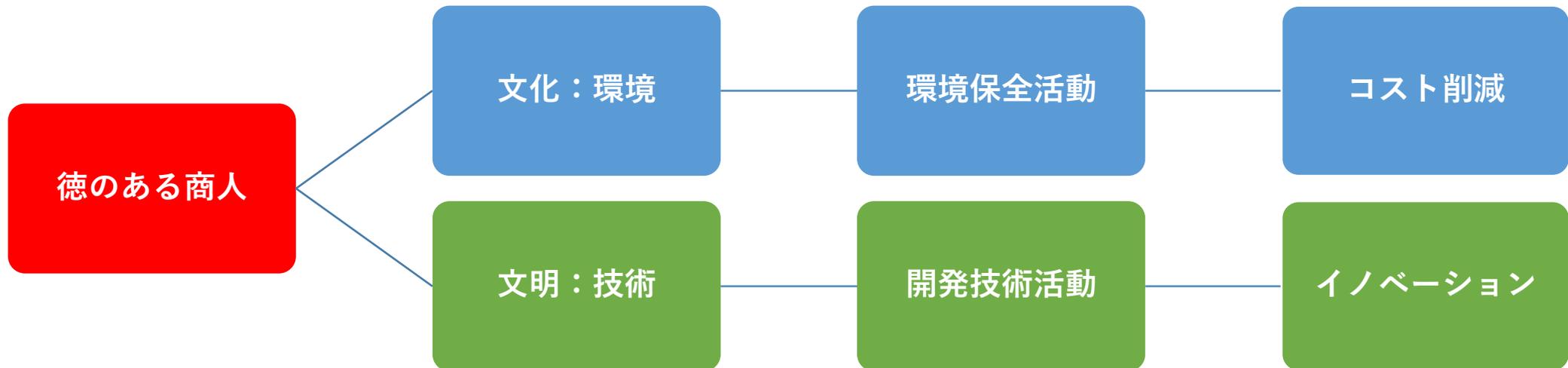
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

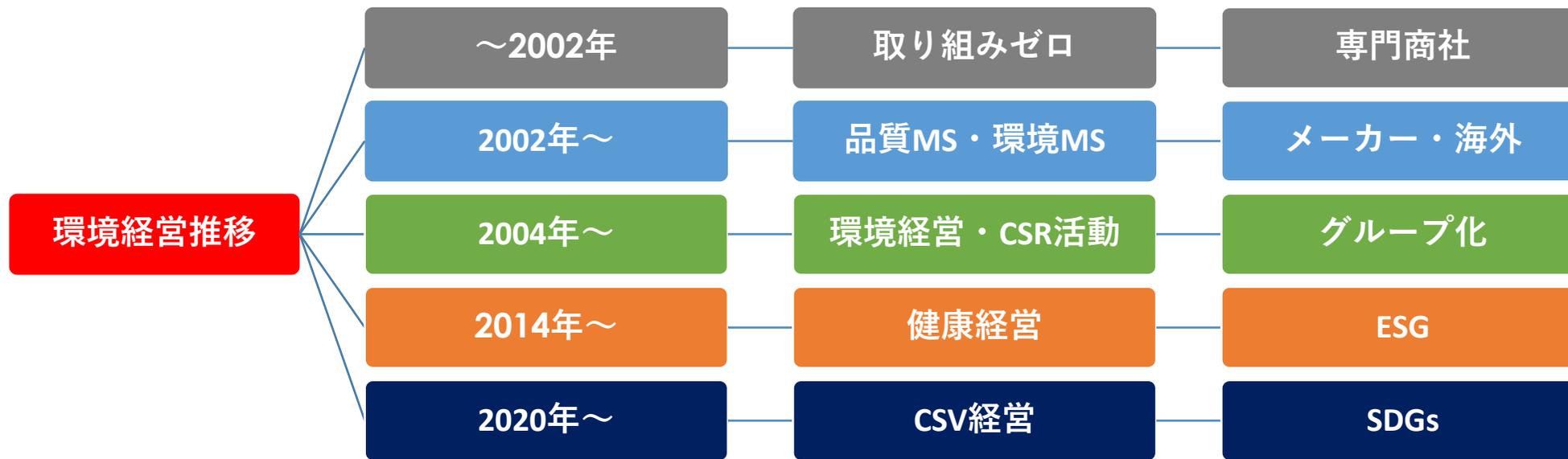
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

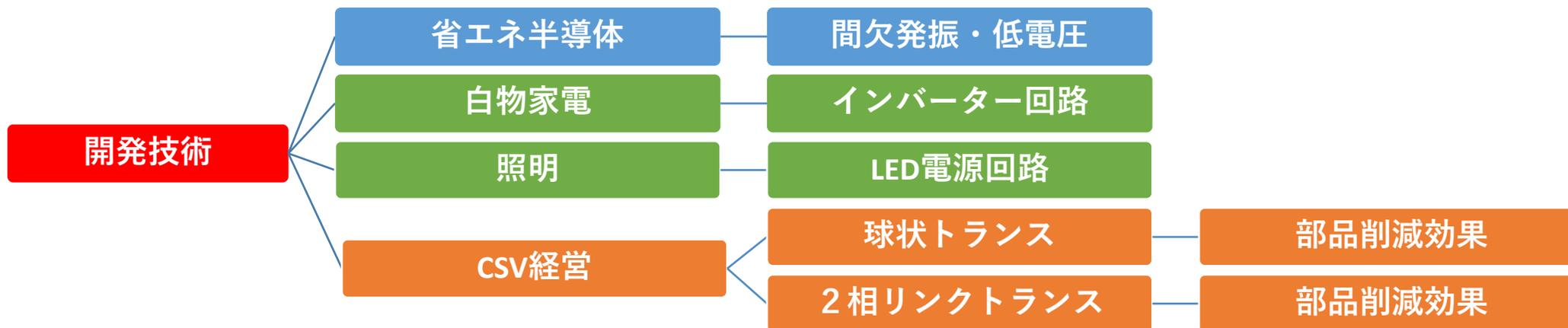
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！

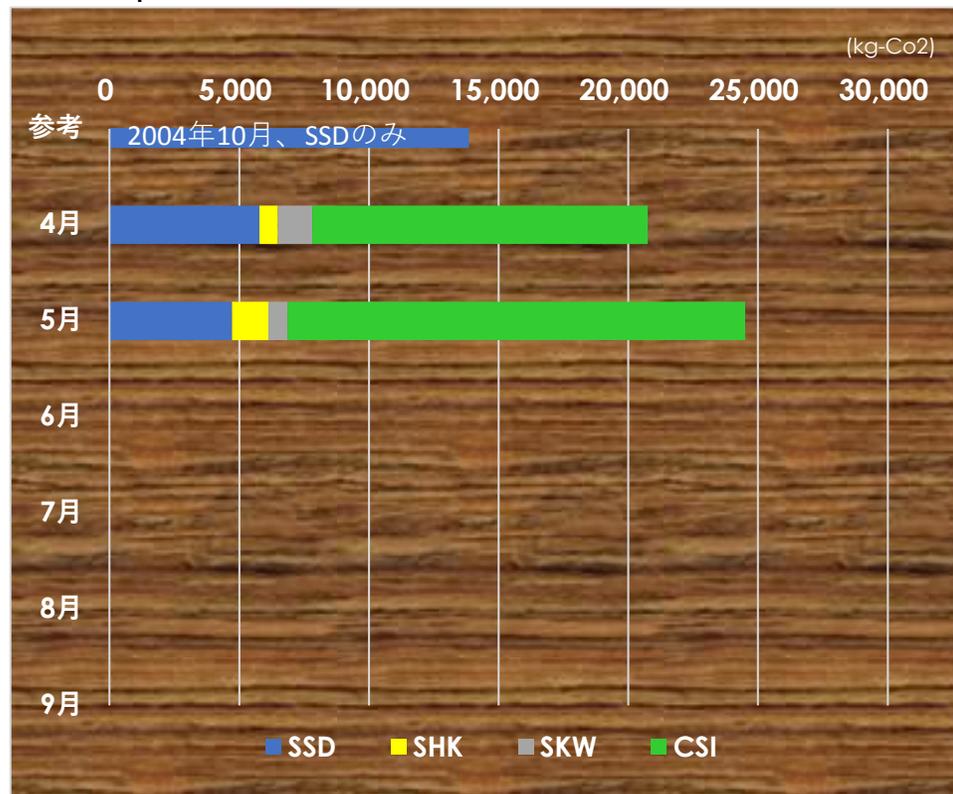


活動報告

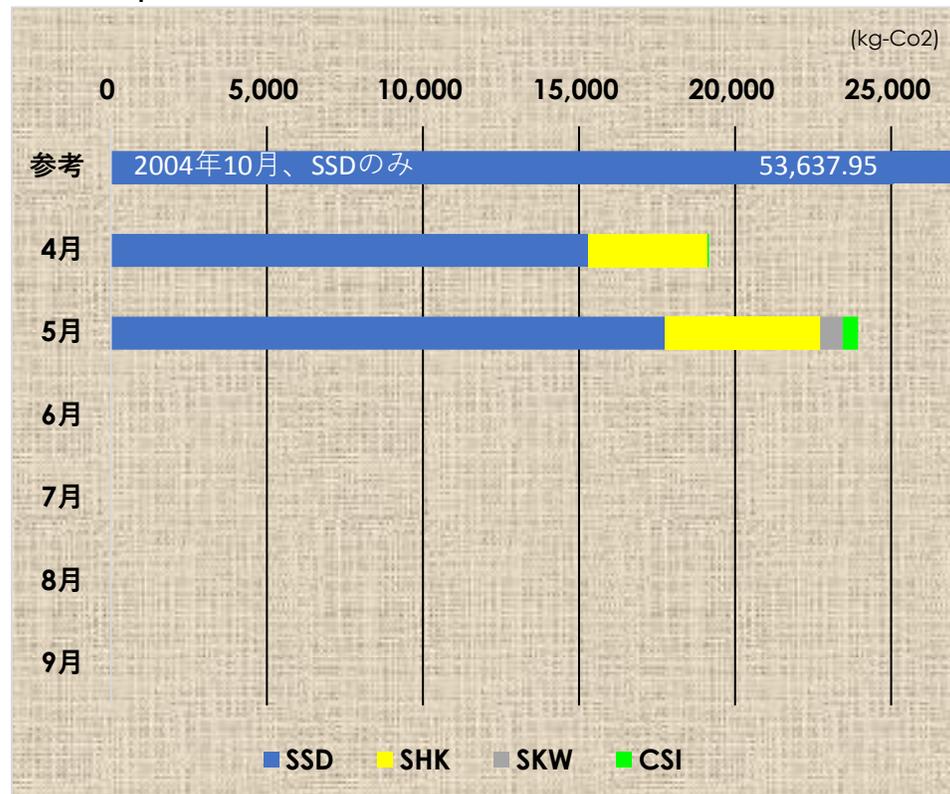
- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

SSGサプライチェーン排出量

- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）



- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



一般廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kg)

累計/折れ線(kg)



一般産業廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(m³)

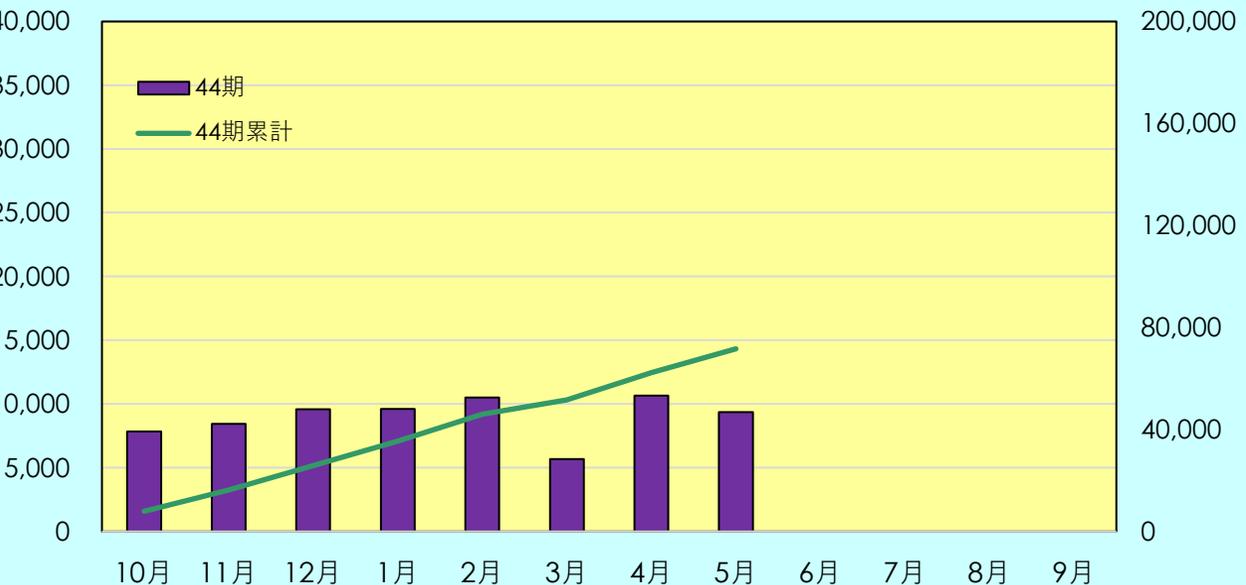
累計/折れ線(m³)



廃棄物処理金額 (累計)

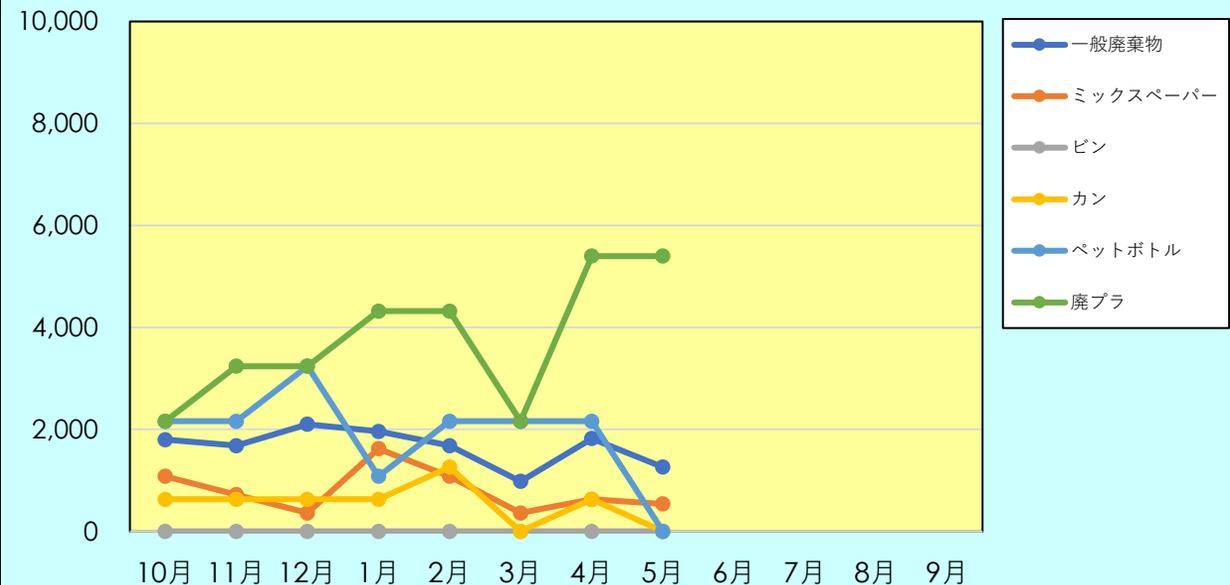
月次/棒グラフ(円)

累計/折れ線(円)



44期廃棄物処理金額

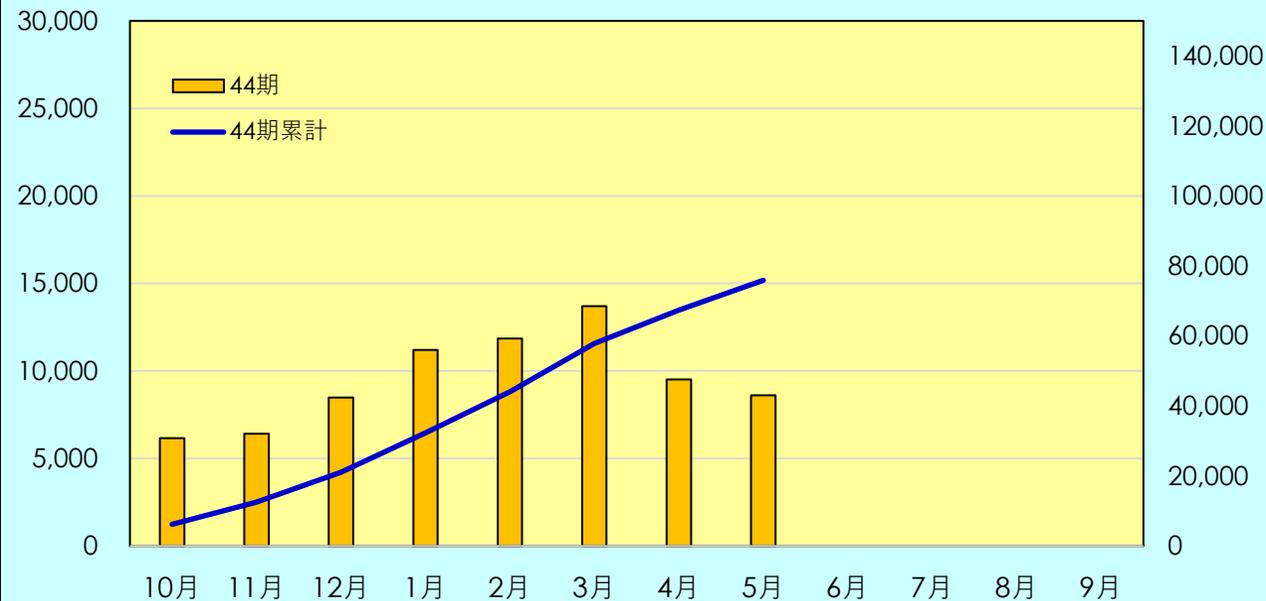
(円)



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

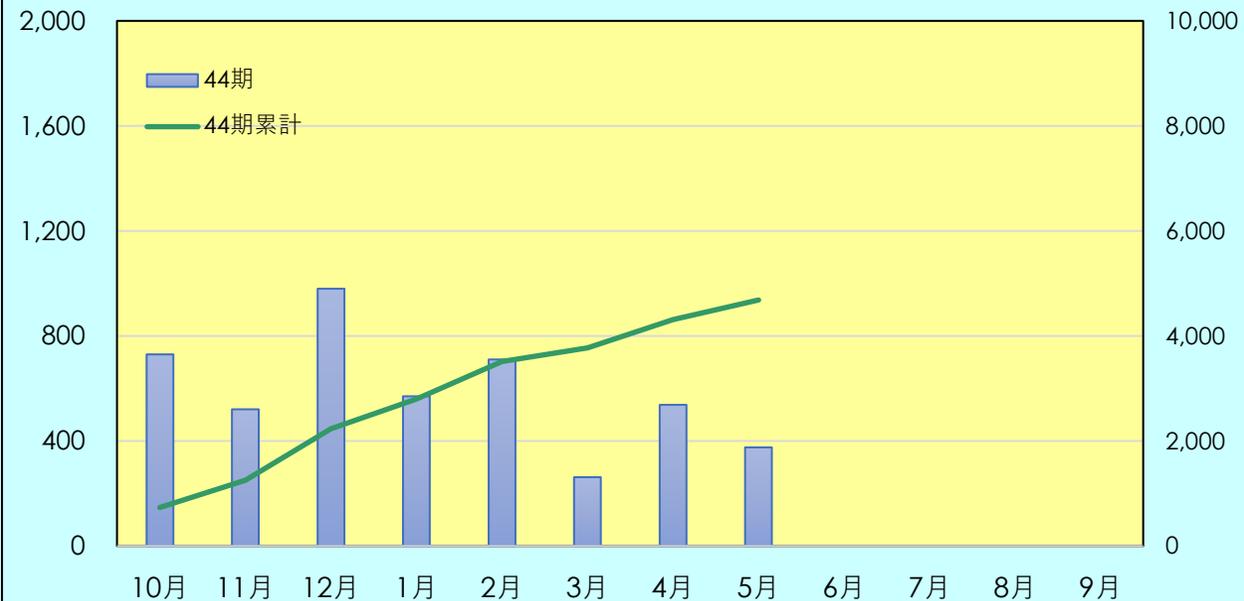
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

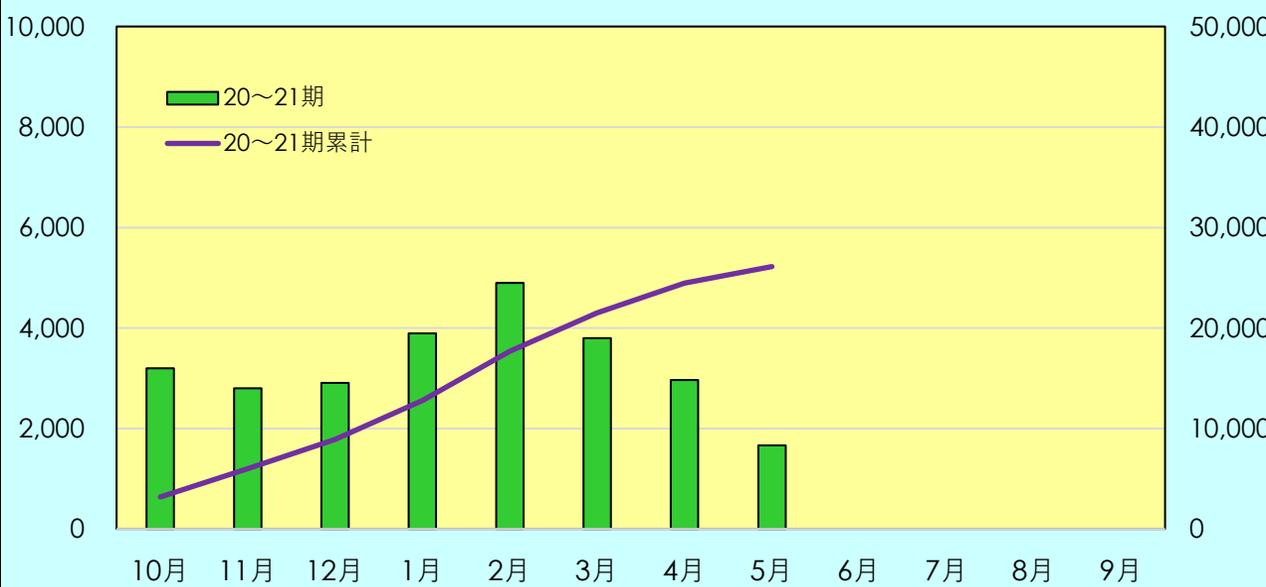
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●協会けんぽ「健康優良企業・銀の認定証」が 1年間更新されました！

サンシン電気（株）は、2016年10月に「健康企業宣言」をし、2017年5月に協会けんぽ・東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」を受け、日々、健康企業宣言に資する健康経営・健康づくりの取組みを継続して進めてきました。

今年5月に6回目の認定を受けるべく更新申請をし、2023年5月31日まで認定期間が更新されました。

「銀の認定証」を受けるためには、社員の健康診断の100%の受診、特定保健指導の実施、職場の「食」「運動」「禁煙」についての継続した情報提供・共有等が必須です。

これからも社員とそのご家族の健康と幸せのために、健康経営・健康づくりへの取組みを積極的に進めて参ります。

※「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（5月参加人数：延べ3名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 動物介在ボランティア活動実施（ミタスライフ）
※2020年8月時点では、コロナ禍により活動を休止しています。
- 学習塾において生徒のコーチング＋学習支援事業を実施（ミタスライフ）

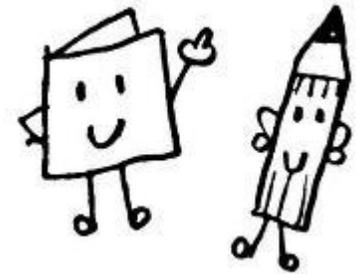


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

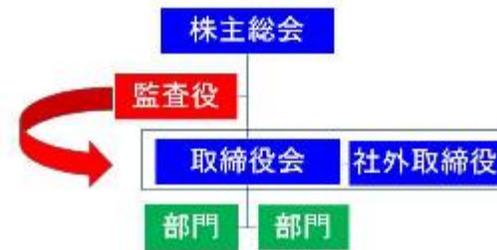
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成



マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



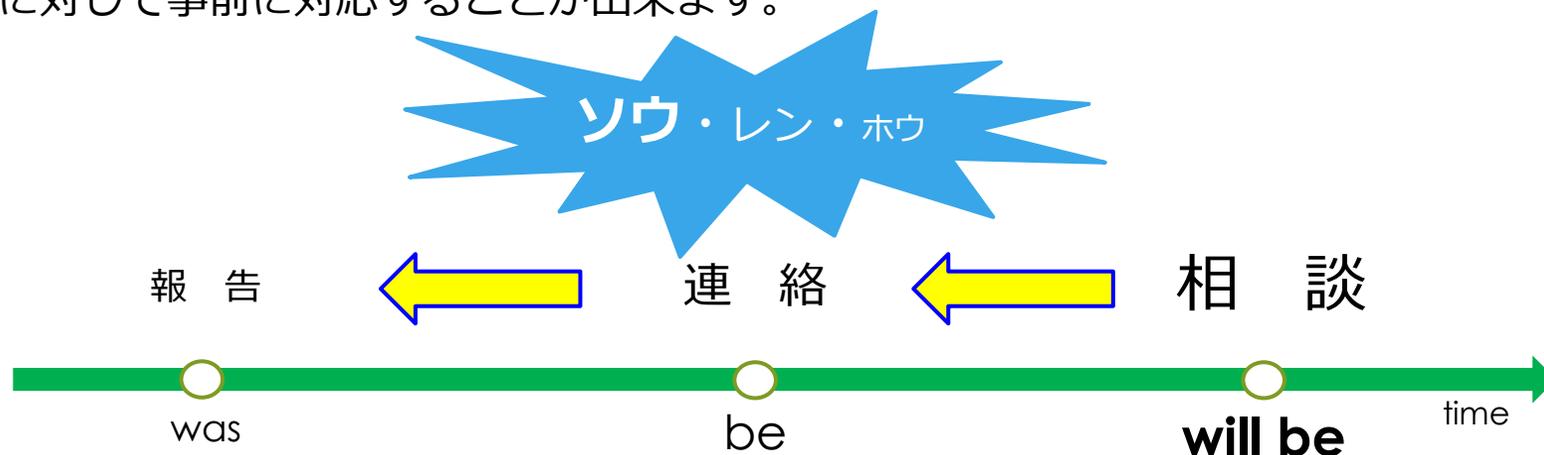
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

...とにかく暑いです。連日猛暑が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。毎年毎年この時期になりますと熱中症にご注意を！とあちこちで聞くようになります。我慢せず、少しでも熱中症の疑いがある場合は速やかに受診するようにして下さい（脳への障害が出る場合もあるようです）。